

お聞かせください

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



松下一男さん(草野)

100%は元に戻らないのですから誰もが先行きは不安でしょう。一番の復興は一人でも多くの人が村に戻ることで、事情がそれぞれあるからね。

来年3月末に見込まれる避難指示解除は、文字通り、避難指示を解くものであり、帰村を強制するものではありません。松下さんのお話の通り、一人でも多くの方が戻れることが、何より大きな復興の力となりますが、5年を越えた全村避難と放射能災害の特異性が、状況を複雑にしています。

しかしながら、その中でも、いち早く帰村して村内で取り組みを始めようとする人たちの動きもあります。すぐには戻れなくても、将来的な帰村を目指して行動している人たちもあります。

村も、一つひとつの課題を乗り越えながら、新たな村づくりに取り組んでいます。村民の暮らしの再生を支援しながら、より多くの皆さんに安心して戻っていただける環境づくりにも努めます。



八巻良清さん(草野)

昨年突然に息子を亡くしました。村外に暮らす息子の家族を支えながら、村内と村外とを行き来する生活を、しばらく続けるつもりです。

大切なご家族を亡くされ、どれほど悲しい思いをされたことでしょうか。お悔やみを申し上げます。

避難生活が続く間に、5年を越える歳月が流れ、多くの世帯の状況が変化しました。帰村の意志があっても、すぐには実現できないご家庭も少なくないと思われます。

この話をうかがったのは、村内でした。当面は2地域居住を続けられるとのこと。ご苦勞もあるかと思いますが、この局面を乗り越え、ご家族の協力のもとでお孫さんたちが健やかに成長されますようお祈りいたします。



夏の草刈り

その昔、夏の草刈りは大仕事でした。「草刈りが済めばお盆になる」と互いに言い合いながら乗り切っていたそうです。中でも、刈った草を田畑に敷き込みたい肥にする「刈敷」の草刈りは、開始日が決まっています、その日を「カマアキ」と呼んでいました。大勢で暗いうちから出て行って、太陽が上がりきる前には刈り終わりました。

「カマアキ」の日には、刈った草を運ぶ馬を何頭も連れて行きました。よい肥料になるよい草を刈ろうと、大人も子どもも男も女も一緒に作業をするので、励みもあつたそうです。馬には、どちらが頭でどちらが尻か分からないほど、たくさんの草がつけられました。刈った草のよいところは馬にやり、あとは田畑に入れました。肥料を購入することの少ない時代でしたから、たい肥にする夏草は大量に必要でした。朝早くから作業をするため、鎌は前日の夕方に研いで馬の荷鞍につけておくなど、準備にも心を配っておりました。刈敷の草刈りの時は、「カッチキモチ」という餅をつきました。多くは豆の粉をまぶした草餅でした。力を合わせて仕事をした家族や仲間が味わいました。



朝草刈りから帰る子どもたち

参考：飯館村発行「飯館村史 第3巻 民俗」

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
赤石 優 梗くん	真一・知恵	久保・外内
菅野 尚ちゃん	真樹・美穂	藤平
菅野 琥 雅くん	邦彦・幸枝	宮内
細山 晴 在くん	巳幸・百合奈	飯桶町

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	出身地
大井 利裕	草野
菅野 美紀	伊丹沢

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
木幡 俊夫	54	八木沢・芦原
高野 武男	83	前田・八和木
戸内 フク	85	大倉
大槻 義和	83	大倉
桑折 房男	64	上飯樋
星 ミツエ	87	上飯樋

ご冥福をお祈り申し上げます

(6月21日から7月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

あれは確か本庁勤務初日の夕刻でした。通り雨が飯館の空に虹を描いたのは。またある昼下がりにはヒツジグサの白い花をまといつた小さな沼を見つけた▼ヤマユリも美しい季節です。「イノシシ被害で数が減ってしまった。再生プロジェクトを進めるんだ」という村の方にも会いました▼本庁に来てから、小さな「うれい」の頻度や質が変わってきたなあと感じます。「村にいると気持ちが変わるんだ」というお年寄りの言葉が思い出されます▼視察に訪れた他県の方が「きつと遠くない将来、『あの村が今では!』と多くの観光客が来始めるよ」と言ってくれました。日々を重なる行く手に虹が見えた気がしました。(星)